

九州トップレベルの知の拠点 人『財』の育成・輩出を通じ飯塚市の活性化に寄与

INFORMATION

(国)九州工業大学

創 設:1909年4月
飯塚キャンパス:福岡県飯塚市川津680-4
TEL:0948-29-7500

(国)九州工業大学

大学院情報工学研究院長
大学院情報工学府長
情報工学部長 教授 博士(工学)

梶原 誠司 氏

「社会と協働する教育研究のインタラクティブ化加速パッケージ」を大学改革事業のテーマとして掲げる(国)九州工業大学(以下、九工大)。教育研究のインタラクティブ化によって、地域社会との『対話』、『交わり』、『相互作用』の促進に注力するなか、2017年4月26日、飯塚市・嘉麻市・桂川町と九工大・(学)近畿大学の2市1町と各大学間で、包括連携協定が締結された。

情報系学部は人気上昇中

— 九工大は九州を代表する理工系大学です。現在の状況についてお聞かせください。

梶原 近年、本学を志願される学生の入試における偏差値は上昇傾向にあります。社会的に「AI」や「IoT」といった言葉が浸透した影響もあり、学生たちにとってとくに情報系の学部に入る動機付けや卒業後の進路に道筋が付けやすくなったことも志願者の質の向上に関係しているのではないのでしょうか。カテゴリーも細分化が進んでおり、たとえばAIと一口にいても、AIそのものについての

研究をするのか、AIを使った関連技術・周辺分野について研究を進めるのかでも学びの内容は変わってきます。IoTも同じです。

多様化するニーズに的確に対応していくために、本学では重点プロジェクトセンターを設置しています。これは、注目される研究分野やとくに優れた研究業績を上げている研究グループを重点プロジェクトセンターとして認定し、人材・研究資金などを重点的に配分するという取り組みです。これにより、専門知識の研鑽、新技術・サービスの開発や、研究環境の充実に繋げていき

いと考えております。飯塚キャンパスの研究者を中心に構成されるセンターには、ネットワークデザイン研究センター、バイオメディカルインフォマティクス研究開発センター、ディペンダブル集積システム研究センターなどがあり、情報工学に強みを持つ飯塚キャンパスの特色が出ているといえます。

— 優秀な学生たちが集い、学び舎としても設備の拡充が図られるなか、九工大は飯塚市・嘉麻市・桂川町と近畿大学の2市1町と各大学間で、包括連携協定を締結されました。

梶原 本学はこれまでも飯塚市を中心に、各企業や地方公共団体、教育機関などから、教育・研究の実践の場を提供していただけてきました。

4月26日に締結された包括連携協定では、特定の業種・協力分野は設けず、地域全体の課題解決や魅力向上に関係各所が広く関わっていきます。本学では、学術的分野(教育・文化の振興)における飯塚市との連携事業の1つのテーマとして、『医工学連携』を掲げています。具体的には飯塚市、飯塚病院さま、飯塚研究開発機構さまと共同研究を行ってきました。個別の研究内容としては、一例ですが医療用のナノロボットによる患者の体内撮影や、バイオメディカルデザインコースの学生と病院職員による人材交流などがあり、これらをさらに充実させていく予定です。普段異なる活動領域にある組織が、産学官連携のなかで1つの成果を上げることは決して容易ではありません。しかし、飯塚病院さまとの共同研究に関していえば、飯塚病院さまの手厚い協力体制の構築もあり今後の取り組みに期待が持てる状況です。

— アジアIT特区でもある飯塚市ですが、情報教育の状況はどうか。

梶原 ITを活用した取り組みで今注目されているのが、小中学校における人型ロボットとの触れ合いを軸とした特別授業の導入です。ソフトバンクの感情認識

ヒューマノイドタブレットpepper(ペッパー)を活用して授業を行うというもので、すでに市内の小中学校14校で各学校に7台導入されています。この教育の一部に、本学の教員も関わらせていただいています。

また、本学教職員および学生が小学生を対象としたプログラミング教育の推進を行っているほか、飯塚市・嘉麻市・桂川町ではプログラミング・IT教育事業を手がけるライフイズテック(株)(本社:東京都港区、水野雄介代表)と連携し、中・高校生向けに教育プログラムの提供を実施しています。大学生にはイノベーションを生む思考やITスキルを身に付け、中・高校生には早い段階からプログラミングやITを学ぶ機会になります。このプログラミング教育を受けた小・中・高校生が、大学生になり今度は教える側に回るといったような、地域の継続的な人材育成システム構築に取り組んでいます。

本学卒業生のなかには在学中に情報サービスの開発で一定の成果を上げ、それを武器に起業した方もいらっしゃいます。本学ではそうしたOBの方や著名な起業家の方のセミナーなどを通じた起業家教育も今後充実させていく予定です。これは、シリコンバレーの起業家精神(アントレプレナーシップ)に学び、リーダーシップ教育を通じて次世代の産業を担う科学技術者を育成しようという試みです。

九工大による地域貢献

— 九工大では教員、学生が積極的に地域との関わり合いを持たれています。

梶原 これまでも、小中学生向けの理科実験教室を行ってきました。これは、学生が実験テーマのアイデアを投入し、講師となって小中学生を指導するものです。2012年度から毎年実施しており、毎回、テレビや新聞のマスコミにも取り上げていただいています。

また、本学の教員が主体となって行っている地域交流の1つが、「サイエンスカフェ@九工大情報工学部」です。一般の方が、教員とお茶やコーヒーを飲みながら、気軽に科学について語り合うことで、コミュニケーションを図ると同時に、科学に興味を持ってもらおうという試みです。

— 九工大の今後の地域貢献について目標などあればお聞かせ下さい。

梶原 情報系のツールを活用してできることは多岐にわたります。本学では授業の一環として、ドローンを利用した空撮によるPR映像の作成も行いました。こちらは評判も良く、飯塚市のPR映像の作成にも発展できないか模索しています。私たちにとっては、研究・開発したものを実地で検証できるというメリットもあります。大学と地域が相互扶助の関係であり続けられるように、本学はこれからも教育のインタラクティブ化に努めていきます。

(代 源太郎)